

- 5 調査報告書の編集経過
- 6 各地区の案内
- 7 引用・参考文献
- 8 報告書編集委員
- 9 編集後記

## 5 調査報告書の編集経過

	開催月日	場 所	主な会議内容	参加メンバー
第1回 編集準備会	平成24年10月27日	宮城大学	・進捗状況の確認 (データ入力終了)	黒川先生・鹿野先生・菱沼・佐藤・新田
第2回 編集準備会	11月13日	宮城野中学校	・今後の編集計画について ・報告書の項立て ・担当者の選定 ・業者の選定について	菱沼・佐藤・新田
第3回 編集準備会	12月20日	宮城大学	・今後の方向性について	鹿野先生・菱沼・佐藤・新田・
第1回 編集委員会	12月25日	宮城大学	・各担当者の顔合わせ ・進捗状況の確認 ・進め方の確認	黒川先生・鹿野先生・編集委員全員
第2回 編集委員会	平成25年1月22日	宮城第一高等学校	・その1の記号部分見直し ・記述部分の分析検討	平成21・22年度事務局役員
	1月29日	多賀城市役所	・その2の記号部分の検討 ・記述部分の分析検討	平成23・24年度事務局役員
第3回 編集委員会	2月26日	青年文化センター	・進捗状況報告 ・表題・発行形態についての検討	編集委員全員
第4回 編集準備会	3月1日	ジョイフル	・発行形態の検討 ・第4回編集委員会について	菱沼・佐藤・新田
第4回 編集委員会	3月26日	仙台市教育センター	・進捗状況報告	編集委員全員
	4月	ジョイフル	・印刷所決定	菱沼・佐藤・新田
	5月		・最終原稿提出	各編集委員
	6月		・校正	大槻・編集委員
	7月		・最終校正	大槻・編集委員
第5回 編集委員会	7月	宮城野中学校 他	・完成・発送	編集委員全員

## 6 各地区の案内

### 「震災時状況調査」 仙台市中学校教育研究会養護教育研究会

東日本大震災後の仙台市中学校（一部小学校も含む）の震災時の状況を把握し、全体で情報を共有する。次の災害に備え、避難所や保健室での養護教諭の役割や今後の課題について検討する資料とし、よりよい対応の在り方を追究することを目的として調査を実施した。

<震災時状況調査まとめの項目>

- ① ライフラインの状況について
- ② 学校が避難所になったか
- ③ 保健室の状況について
- ④ 行政との連携について
- ⑤ その他

<調査期間>

平成23年3月11日（東日本大震災直後）～6月30日  
調査表の記入は6月30日～7月20日に実施。

<調査対象校>

67校（回答校66校 内訳：小学校校4校・中学校62校）



### 震災時における養護教諭の役割 ～東日本大震災での対応の記録から～ 岩沼市養護教諭部会

平成20年度から3年間「大きな災害が発生した場合、養護教諭として果たすべき役割は何か」について研究を重ねていた。この研究を終えた直後に起きた東日本大震災での各学校でのさまざまな対応を、次のようにまとめた。

1. 震災直後から学校再開までの養護教諭の動き
2. 震災後の児童生徒の変化（健康診断結果、保健室利用状況、欠席者数などからのまとめ）
3. 「震災後の健康観察記録表」など作成していたチェックリストを利用しての心のケアへ向けた取り組み

これらの対応から見えてきた養護教諭の役割と今後の対応への課題をまとめた。

資料1 <児童生使用>

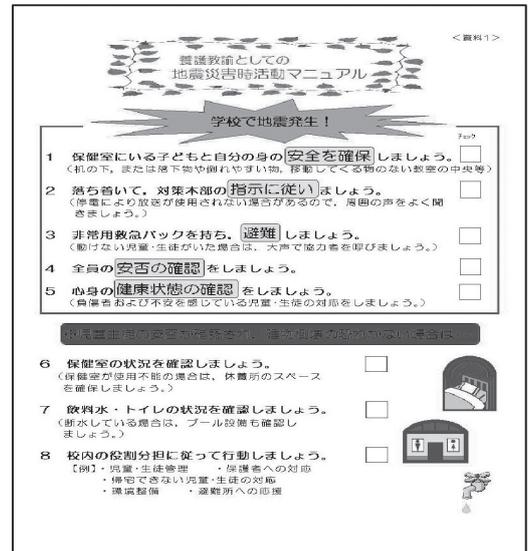
震災後の健康観察記録表

		(年 組氏名)						
項目	調査事項	/	/	/	/	/	/	
食欲	1 食欲がない(おいしくない)							
	2 排便が順調でない							
睡眠	3 眠れず、不眠である							
	4 眠れているけど、寝つきが悪い							
身体的 症状	5 寝ていてもすぐ目が覚めやすい							
	6 頭が痛くなることがある							
	7 おなかが痛くなることもある							
	8 吐き気がすることがある(気持ちが悪い)							
	9 空気が順調でない							
	10 喘息がひどくなった							
	11 アトピーがひどくなった							
精神的 症状	12 けがをしている							
	13 体のどこかが痛い(目、鼻など)							
	14 いらいらしたり、おこりっぽくなった							
	15 おおきな地震が起こるのではないかと不安でたまらない							
	16 少しの音に敏感でびくびくしている							
	17 何となく体が冷たい							
	18 緊張する気がなかなかおさまらない							
	19 集中してやる事ができない							
	20 やる気が弱くなった							
	21 顔や手のひまの温度が低い							



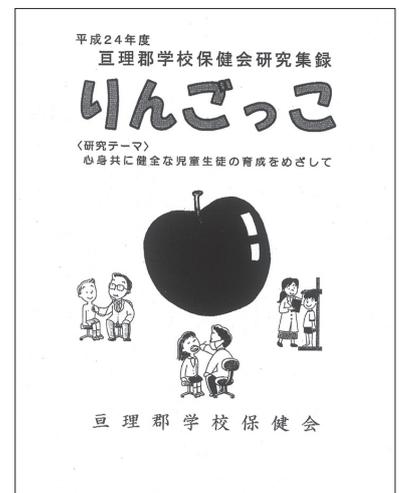
『東日本大震災における養護教諭の対応について』 塩竈市学校保健会養護教諭部会

東日本大震災では、塩竈市でも震度6強の強い揺れと大津波による被害に見舞われました。地震発生から21日間、市内全ての小中学校が避難所となり、その対応に当たりました。養護部会では市内全体の被害状況やその際の養護教諭の役割についてアンケート調査を実施し、その結果から見てきた課題から今後想定される災害に向けての備えとして養護教諭としての「震災時活動マニュアル」や「災害準備用品リスト」等の作成に取り組みました。



『東日本大震災の記録』 亶理郡学校保健会養護教諭部会

平成24年度に、亶理郡学校保健会で毎年発行している研究集録『りんごっこ』に掲載したものです。内容は、平成23年3月11日の震災当日から1学期終業式までの様子、その他状況などを学校毎にまとめたものです。現段階で研究集録の発行部数には余裕がないことから、お問い合わせいただいても対応できませんのでご了承願います。



東日本大震災報告書 宮城県高等学校学校保健研究会養護教諭専門部会

高等学校と特別支援学校で構成される養護教諭専門部会では、東日本大震災に関わる体験と活動の記録を、養護教諭の視点を大事にしながらまとめております。すでに、平成23年11月の秋季大会で各支部から震災の報告をしてもらったものを中心として、震災直後・1年後・2年後・3年後の状況を記録集として編集し、発行は平成28年5月を予定しております。

## 7 引用文献・参考文献

### ■ 参考・引用論文

1. 石井里美「東日本大震災後の養護実践の実態調査－食行動・体位の変化、それを取り巻く現状－」宮城大学看護学部看護学科 平成 24 年度 卒業論文
2. 加藤奈津紀「東日本大震災後の養護実践の実態調査－健康診断・支援養護教諭の派遣・間借りによる保健室経営の実態と課題－」宮城大学看護学部看護学科 平成 24 年度 卒業論文
3. 平山美穂子「東日本大震災後の養護実践の実態調査－学校の状況と養護教諭の対応、児童生徒の心身の変化について－」宮城大学看護学部看護学科 平成 24 年度 卒業論文

### ■ 参考文献

1. 津屋裕子、「Start Up 質的看護研究」、学研メディカル秀潤社、2010.4.15
2. 福島県学校保健会養護教諭部会、「東日本大震災記録集 絆 ふくしまの子らとともに」平成 25 年 1 月
3. 東京都学校保健会研究会、「平成 23・24 年度 調査研究報告 震災に学ぶ－養護教諭にできることやるべきこと」平成 25 年 2 月 14 日
4. 岩手県学校保健会養護教諭部会、「東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集 2011.3.11 明日へつなぐ とき いのち ころろ 」2013.2.20

### ■ 参考資料

1. 「子供の心のケアのために－災害や事件・事故発生時を中心に－」文部科学省（H22.7）
2. 「学校における労働安全衛生管理体制の整備のために」文部科学省（H24.3）
3. 「震災後における子どもの心のケアのために」宮城県教育委員会（H25.2）
4. 「震災後子供たちへの養護教諭としての関わりについて」仙台市教育委員会（H25.3）

## 8 編集委員

### 委員長

菱沼 ゆう 仙台市立宮城野中学校 (平成 21・22 年度部会長)

### 副委員長

佐藤 裕子 多賀城市立高崎中学校 (平成 23・24 年度部会長)

### 委員

(平成 21・22 年度事務局役員)

花渕 のぞみ 仙台市立八乙女小学校  
 我妻 幸子 仙台市立長町中学校  
 大槻 さとみ 仙台市立折立中学校  
 菅澤 麻子 仙台市立南光台東中学校  
 原田 恵子 仙台市立五橋中学校  
 早坂 美穂 宮城県宮城第一高等学校

(平成 23・24 年度事務局役員)

千葉 育子 塩竈市立第二中学校  
 鈴木 由紀子 塩竈市立杉の入小学校  
 新田 奈緒 利府町立利府西中学校  
 星 ゆり 多賀城市立多賀城小学校  
 横山 聖子 多賀城市立多賀城中学校  
 鈴鴨 志保 多賀城市立第二中学校

### 研究支援者

黒川 修行 宮城教育大学  
 鹿野 裕美 宮城大学

### 表紙指導者

伊藤 真市 宮城大学

### データ入力者

#### 実態調査 (その 1)

黒川 修行 宮城県教育大学

#### 実態調査 (その 2)

高森 光江 仙台市立根白石小学校  
 堀越 和枝 加美町立新田小学校  
 西塚 淳子 宮城県富谷高等学校  
 高橋 由美 宮城県迫桜高等学校  
 星 郁子 名取市立相互台小学校  
 大友 博子 多賀城市立山王小学校  
 安部 真紀 柴田町立西住小学校  
 今藤 千秋 涌谷町立涌谷中学校  
 鎌田 理佳 気仙沼市立鹿折小学校  
 佐々木 ひとみ 宮城県石巻北高等学校  
 千葉 ひろ子 宮城県佐沼高等学校  
 鈴木 由紀子 塩竈市立杉の入小学校  
 千葉 育子 塩竈市立第二中学校  
 星 ゆり 多賀城市立多賀城小学校

横山 聖子 多賀城市立多賀城中学校  
 鈴鴨 志保 多賀城市立第二中学校  
 新田 奈緒 利府町立利府西中学校  
 熊谷 奈央 仙台市立宮城野中学校

## 9 編集後記

東日本大震災の発生から2年半が経とうとしております。たくさんあったブルーシートの屋根が今はすっかりなくなりました。海辺の風景は変わり果てた状態のままですが、より良い町づくりに向けた話し合いが重ねられています。新聞に、亘理町の津波被災地の現地で小中学校の校舎を再建する災害復旧工事が6月24日から始まったという、「県内初めての津波被災地の校舎再建」の記事がありました。

時間をかけながら、復興が進んでいます。

東日本大震災後の宮城県養護教諭の実態を、「東日本大震災直後の保健室」という冊子にまとめました。この冊子には、震災後の1年間に行った2つの実態調査のまとめとして、養護教諭が行ってきた実践の様子やその時の思いが集められています。

アンケートをお寄せいただきました先生方、御協力ありがとうございました。編集委員一同、御記入いただきました一つ一つの手記を大切にしながら作業を進めて参りました。報告書をまとめながら、養護教諭が今までの職務を生かし、児童生徒や職員、避難者の心と体の健康を守ろうと懸命に努めていた姿や、学校職員や関係者と共に一丸となって、震災により発生した様々の新たな職務にとまどいながらも全力で立ち向かってきた姿に出会い、大変心を打たれました。

震災直後故に、なかなかアンケートに手をつけられなかった先生方や、書くことができなかった内容もあったかと思います。それらのことに関しましては、よろしければ、後でゆっくりお聞かせください。

宮城教育大学の黒川修行先生には、その1の全ての入力と解析を、宮城大学の鹿野裕美先生には、その2の入力と質的な分析（学生3名とともに）を、そして宮城大学の伊藤真市先生には、表紙のデザインにそれぞれ御協力いただきました。3名の先生方の御力がなければ完成はできませんでした。ありがとうございました。

この報告書をまとめた編集委員、一人ひとり程度の差はありましたが皆被災し、仮設校舎や避難所運営、間借り校の受け入れなどの体験をしました。さらに現在の事務局役員は、総会や全養会宮城大会の2つの大きな行事の準備と同時進行の作業となり、その多忙さは、想像を遙かに超えていたと思います。そんな中でも報告書の編集に余念がありませんでした。ありがとうございました。

最後に、御支援をいただきました宮城県学校保健会はじめ関係機関の皆様、株式会社仙台紙工印刷様に心から感謝申し上げます。編集後記といたします。

菱 沼



H25宮城野中学校七夕飾りより

---

---

# 東日本大震災直後の保健室

2013年7月

発行 宮城県学校保健会養護教諭部会  
実態調査報告書編集委員会事務局  
仙台市立宮城野中学校  
〒983-0842 仙台市宮城野区五輪一丁目4-25

編集・印刷・製本 株式会社仙台紙工印刷  
〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹三丁目1-14  
TEL 022-231-2245(代) FAX 022-231-2247

---

---

## ■表紙イラスト

制作者：大房 洋子（オオフサ ヨウコ）宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科4年

養護教諭の方々が子どもたちをやさしく包み込む姿、そして人と人の有機的なつながりを、やわらかな線画を用いて表現しました。またそれを取り囲む円形は、つながりの中で生まれた安心感や、まごころといった、温かな心の様子をイメージしたものです。

